

第4学年 図画工作科学習指導案

第4学年 21名
指導者 左倉 直子
竹内 奈穂
授業場 図工室

1 題材名 つくって、つかって、たのしんで ～1まいの板から～ <A表現(2)工作に表す・B鑑賞>

2 題材設定の理由

本題材は、1枚のシナベニヤ板を材料として生活に役立つ入れ物やかべかけをつくる題材である。まず、シナベニヤ板に数本の直線を引き、のこぎりで大きささまざまな形に切る。そうすることで、児童の概念を崩し、四角い箱形の入れ物ではなく、いろいろな形の入れ物やかべかけをつくることのできるのではないかと考えた。切った板切れは並べたり組み合わせたりすることで、動物、植物、身の回りの物などさまざまな物に見立てたり、おしゃれな感じ、かっこいい感じにしたりすることもできる。切った板切れを操作しながら偶然にできた形からイメージを広げ、自分だけのオリジナルの入れ物、かべかけをつくることのできるであろう。また、何を入れるのか、どのように使うのかを具体的に想定することにより、入れ物の部分の大きさや形、位置を考えたり、丈夫で使いやすい作品になっているかを確認したりして、自分の生活に生かそうとすることで、主体的に表し方を工夫する活動につながると考える。さらに、自分の作品を互いに紹介し合うことで友達とつながり、互いの表現のよさや違いを味わうことも期待できる。

本学級の児童は、明るく素直で、学習活動に一生懸命取り組むことができる。図画工作科が好きな児童が多く、図画工作科の時間を楽しみにしている。1学期に学習した『トントンつないで』では、木工用具の扱いに慣れ親しみ、木を切ったり釘を打ったりして動くおもちゃをつくった。多種多様な木片の中から自分の作品に必要な木片を探したり、自分の作品に合うように角材を切ったりして、自分の思いがこもった作品を完成させることができた。鑑賞会では、自分の作品に満足し、自信をもち、しっかりと思いをアピールすることができた。しかし、振り返ってみると、用意した材料の木片が多すぎて、どれを使うかなかなか決められなかったり、4年生の児童にとっては扱いにくい木片も混じっていて、切りにくかったり釘が打てなかったりする場面もあった。そこで、本題材では、児童に与える材料についてよく考え、児童一人一人の思いが実現できるよう、適切な支援をし、作品を完成させたい。

指導に当たっては、まず、事前に「アートタイム」を活用して、切った紙を並べ、想像力を働かせながら何かに見立てる経験をさせておく。題材の導入では、児童に「1枚のシナベニヤ板から入れ物やかべかけを作ってみよう。」と提案し、1枚の板から偶然できた板切れの形から自分がつくりたい物のイメージを膨らませ、板切れを並べたり組み合わせたりし、何を入れるのか、何に使うのかをしっかりと意識させ、アイデアスケッチをかかせる。製作をする場面では、児童の表現欲求に応えるため、補助的に厚めの板や細木、角材を用意し、組み立ての幅が広がるようにしたい。木工用接着剤の使い方を確認し、角材や厚めの板を補強材として使い接着する方法を知らせ、自分がつくりたい物になるようにしたい。そして、色をぬったり飾りを付けたりして自分のつくりたいイメージに合う作品に仕上げさせたい。この学習を通して、自分の思いを大切に、自ら材料にかかわり、自らつくりだす児童を育てたいと考え、この題材を設定した。

3 題材の目標

- いろいろな形に切った板材を組み合わせて、生活に役立つ入れ物やかべかけをつくることに興味や関心をもつことができる。(造形への関心・意欲・態度)
- 自分が表したいことや用途に合わせて、板材の形や組み合わせを考えることができる。(発想や構想の能力)

- 自分の表したいことや用途に合わせて、材料の使い方やつくり方を工夫して表すことができる。
(創造的な技能)
- それぞれの表し方の違いや工夫のよさなどを感じ取り、伝え合うことができる。(鑑賞の能力)

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
いろいろな形に切った板材を組み合わせて、生活に役立つ入れ物やかべかけをつくることに興味や関心をもっている。	自分が表したいことや用途に合わせて、板材の形や組み合わせを考えている。	自分の表したいことや用途に合わせて、材料の使い方やつくり方を工夫して表している。	それぞれの表し方の違いや工夫のよさなどを感じ取り、伝え合っている。

5 指導と評価の計画 (全6時間 本時4/6)

時 間	学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第一 次 (二 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がつくりたい入れ物やかべかけのイメージをもち、シナベニヤ板をいろいろな形に切る。 ○ 自分がつくりたい入れ物やかべかけの組み立て方などを考えながら、アイデアスケッチをかく。 	<p>いろいろな形に切った板材を組み合わせて、生活に役立つ入れ物やかべかけをつくることに興味や関心をもっている。 (観察・発言)</p>	<p>自分が表したいことや用途に合わせて、板材の形や組み合わせを考えている。 (観察・対話・ワークシート)</p>		
第二 次 (三 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の表したいことや用途に合わせて、板切れの組み合わせを考え、工夫して組み立てる。 (本時4/6) ○ 色をぬったり飾りを付けたりして作品 			<p>自分の表したいことや用途に合わせて、材料の使い方や組み立て方を工夫してつくっている。 (観察・対話・発言・作品)</p> <p>自分の表したいことや用途に</p>	

	を完成させる。			合わせて，形や色を工夫して表している。 (観察・対話・発言・作品)	
第三次 (一時間)	○ 自他の作品を鑑賞し合う。				それぞれの表し方の違いや工夫のよさなどを感じ取り，伝え合っている。 (観察・発言・振り返りカード)

6 本時

(1) 目標

いろいろな形に切った板材を組み合わせ，入れ物やかべかけを工夫して組み立てることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
5分	1 本時の学習活動のめあてを確認し，活動への意欲をもつ。	○ 前時までの学習を振り返り，本時の活動のめあてをもたせる。		
35分	2 板材を組み合わせ，丈夫さや使いやすさを考え，工夫して組み立てる。	○ 組み立てるときに不安定な場合には，角材などを補助材料として利用したらよいことを確認する。 ○ 補助的に使う板材や細木，角材を用意しておく。 ○ グループで会話をしながら作業させることで，友達のいいところを参考にさせる。	自分の表したいことや用途に合わせて，材料の使い方や組み立て方を工夫してつくっている。 【創造的な技能】	観察 対話 発言 作品
5分	3 本時の学習を振り返り，次時への意欲をもつ。	○ グループで互いの作品のいいところを話し合うことで，次時の活動への意欲を高める。		

(3) 評価および指導の例

「十分満足できる」と判断できる状況	・ 製作しながら自分のイメージを膨らませ，用途に合っているかを確認したり，適切に補助材を使ったり，接着の仕方を工夫したりしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・ 対話により思いを聞き，その思いに応える組み立て方や用具の扱い方について助言する。